

商船三井グループの使命



四方を海洋に囲まれた日本においては、外航船での資源・原材料輸入や製品輸出はもとより、国内航路での貨客輸送を担う内航船も不可欠です。内航海運は商船三井の祖業である外航海運と切っても切り離せない存在です。商船三井グループは外航海運と内航海運のいずれにおいても、社会インフラに不可欠な存在として、青い海から人々の毎日を支え、豊かな未来をひらきます。

海洋人財育成

日本国内の貨物輸送において、船舶による海上輸送はトンキロ（輸送量 × 輸送距離）ベースで全体の約 4 割を占めています。トラックなどの自動車による陸上輸送に比べ、少人数での長距離・大量輸送が可能であり、環境低負荷で効率的な輸送手段としてモーダルシフトの重要な受け皿となる一方、少子高齢化によって船を運航する船員・乗組員不足が深刻化しています。商船三井グループは海事教育機関や業界団体、諸官庁と連携して、将来の日本を支える海洋人財の育成、安定的な社会インフラの提供に貢献していきます。

技術革新

内航船においても、環境対応や自動運航といった新技術導入の必要性が高まっています。快適な居住空間や最新鋭の技術を備えた新しい船舶の建造やDX化は、船員・乗組員不足問題の解消や安全性の向上にも有効な手段となります。商船三井グループは外航海運における技術開発の知見やグループ内でのシナジーを活かし、内航海運においても技術革新をリードする存在を目指します。

海の惑星とともに、次へ。

BLUE ACTION MOL



MOL 商船三井内航 MOL 商船三井ベイリンクス MOL 商船三井マリテックス MOL 商船三井ドライバルク



株式会社 商船三井 〒105-8688 東京都港区虎ノ門2丁目1番1号



MOL Group's
Coastal Shipping
Business



<https://www.mol.co.jp/>

商船三井グループの内航事業

商船三井グループの内航事業

商船三井グループでは、多岐にわたる内航事業を行っています。長距離・大量輸送が可能な船舶による物流を通して、社会生活、国内産業のインフラを支えるとともに、環境に優しい輸送手段としてモーダルシフトの推進に貢献しています。

フェリーによる旅客輸送では、より快適に、より楽しく、お客様へ安全な船旅と新たな旅の付加価値を提供しています。

フェリー・RORO 船

● 商船三井さんふらわあ



北海道から九州まで、国内最大規模（6 航路 14 隻）のフェリー・RORO 船ネットワークを構築し、「さんふらわあ」の上質な船旅と海上輸送サービスを提供しています。移動そのものを気軽に楽しんでいただく「カジュアルクルーズ」、トレーラーを利用した海陸一貫輸送のご提案、環境低負荷の LNG（液化天然ガス）燃料フェリーへの置換など、人と社会に価値ある取組を続けてまいります。



● 名門大洋フェリー



北九州（新門司港）と大阪（南港）の 2 大都市圏を大型フェリー 4 隻で結び、貨物・旅客輸送を通して地域社会に貢献しています。貨物においてはコンビニに並ぶ食品類や建設資材、半導体関連を含む工業製品から産業廃棄物に至るまで様々な物を運び、旅客においては単なる移動ではなく「非日常」を楽しめる船旅を提供、今後も顧客満足を追及してまいります。



一般内航船

● 商船三井内航



国内随一の内航海運マルチオーナーオペレーターとして、最適な海上輸送ソリューションをオーダーメイドで提供し、日本の産業を海から力強く支えています。日本初の LNG 燃料内航船・メタノール燃料船を含む多様な船舶により、環境負荷低減と安全性を両立した次世代輸送を推進してきました。更に、液化ガスを中心とする新エネルギー輸送にも注力し、脱炭素社会の実現に向けた取組を加速しております。



● 旭タンカー



大小約 120 隻のタンカーを運航し、石油類をはじめ暮らしに欠かせないエネルギーを日本全国お届けしています。社会インフラを担う危険物海上輸送のプロとして、安全で高品質なサービスを提供するのは勿論、世界初のビュアバッテリー電気推進タンカー開発による脱炭素推進、船員労働環境改善を目的とした船上 Starlink 導入など、未来の海につながる取組を続けています。



曳船

● 商船三井ベイ・リンクス

● グリーン SHIPPING

● 日本栄船

● グリーン海事

曳船 (Tugboat) は出力と機動性に優れ、他の船舶を自らの船体で押す・曳くことで操船支援する港内安全に欠かせない船です。商船三井グループでは日本栄船株、グリーン SHIPPING 株、グリーン海事株の 3 社で曳船事業を展開し、日本全国で多くの船の入出港を支えています。

2025 年には 3 社の持ち株会社として株式会社商船三井ベイ・リンクスを設立。更なる安全・事業強化に向けグループ一丸となって取組んでまいります。



成長が期待される新規事業

商船三井グループは、2050 年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「ネットゼロ・エミッション」達成を目指し、「環境・エミッションフリー事業」を新規事業として推進しています。日本国内においても、再生可能エネルギーである洋上風力発電への参画や、次世代クリーンエネルギーとしてのアンモニア輸送、CO2 の再資源化に関する研究・事業開発を進めています。

洋上風力発電

● メンテナンス技術者輸送船



商船三井ベイ・リンクス

CTV (Crew Transfer Vessel) は、洋上風力発電設備の建設や保守管理に従事する作業員を輸送する船舶です。商船三井グループは石狩湾新港や北九州響灘において CTV を運航し、日本国内における洋上風力発電事業を海運会社として支援しています。同じく作業員輸送を目的とした船舶で、より大型かつ長距離移動・長期間滞在に優れた SOV (Service Operation Vessel) についても、台湾での運航実績を活かして国内における新たなニーズに対応していきます。



● ケーブル敷設船



商船三井マリテックス

商船三井グループは、50 年以上にわたってケーブル敷設船の船舶管理と運航を担っています。2023 年からは NEDO (国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構) より採択を受け、これまでの知見を生かしながら国内向け新型ケーブル船の開発を進めています。



写真提供：KDDI ケーブルシップ株式会社

● 浮体式洋上風力発電関連船



商船三井ベイ・リンクス

洋上風力発電施設には、風車が海底に直接設置される「着床式」と、洋上に浮く基礎構造物に設置される「浮体式」の 2 種類があります。設置場所が水深の浅い海域に限定される着床式に対して、浮体式は対象海域が広く、今後日本国内での普及が期待されています。商船三井グループは、浮体式建設において大きな需要が見込まれる重量物輸送船、アンカーハンドリング船、曳船などにも積極的に取組む方針です。



写真提供：First Marine Solutions

新エネルギー輸送

● アンモニア輸送船



商船三井内航



燃焼時に CO2 を排出しないアンモニアは今、石油に代わる次世代クリーンエネルギーとして発電源や船舶燃料での利用が期待されています。商船三井グループは、山友汽船をはじめとするパートナー企業と連携し、事業に欠かせない内航アンモニア輸送船の船型開発や、そこに乗組み次世代を担う船員の採用・育成に力を注いでいます。海上輸送を通して新たなサプライチェーンの構築に貢献し、内航海運における新しい未来を創造していきます。



● 液化 CO2 輸送船



商船三井内航

CCUS (Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage) とは、発電所や工場などから排出される CO2 を分離・回収し、地中深くに圧入・貯留、または再利用する技術の総称で、温室効果ガス削減の手段として国内外で注目が高まっています。回収された CO2 は様々な化学品や素材の他、環境に優しい新たなエネルギー源としての再利用も期待されます。

液化 CO2 輸送船は回収・貯留・再利用の各拠点を結ぶのに不可欠な船舶です。商船三井グループは 2021 年より液化 CO2 の海上輸送事業に参画し、大型船型や他貨物兼用船の研究、パートナー企業とのバリューチェーン構築の検討など、先進的な取組を牽引しています。

